この子らと

令和5年9月号

命輝く子ども

わくわく鹿児島中央認定こども園

園長　川口公男

見えぬものでもあるんだよ

星とたんぽぽ　金子みすず
青いお空の底深く　海の小石のそのように
夜がくるまで沈んでる
昼のお星は　めに見えぬ
見えぬけれども　あるんだよ

ちってすがれたたんぽぽの
かわらのすきに　だぁまって
春のくるまで　かくれてる
つよいその根は　めに見えぬ
見えぬけれども　あるんだよ
見えぬものでも　あるんだよ

真昼の星や散ってしまったたんぽぽは,見ようとしないものです。でも,星やたんぽぽもそこに生き続けています。

2学期が始まりました。運動会等園の行事も多様です。園の行事を実施する場合,それぞれの行事において職員の係は変化します。そして,見える場面で貢献する職員と木の根っこのように見えない場面で貢献する職員がいます。どの立場の職員も,なくてはならない大切な存在です。

保護者の皆様のご支援もまた,目に見えぬものなのだと思います。でも,確かにあります。

金子みすずの詩は,「木の根っこ」のように,「目には見えなくとも懸命にがんばってくれている人がいる。」,「目に見えないやさしさに生かされて生きている。」というメッセージが込められているようです。

保護者のみなさまもそうですね。なによりも.子どもを自らの人生の真ん中に置いて生活しておられます。自分のことよりも我が子を最優先されています。保護者の皆様の無償の愛は,幼少期の子どもには,見えないものではないかもと思います。本園の子どもたちが,見えぬもの(親の無償の愛)に気付くのは,先になりそうです。

いのちの旅「葉っぱのフレディー」

この絵本は,アメリカの哲学者,レオ・バスカリーナが生涯にたった一度だけ書いた絵本です。

葉っぱのフレディーと葉っぱのダニエルの会話を通して,生きるとはどういうことか,死ぬとは何かを考えさせてくれます。**「死ぬということも,変わることの一つなのだよ」**というダニエルの言葉に著者の哲学が込められているようです。

この本と出会い,この絵本を読んで,とても感銘を受けましたので一部ご紹介いたします。

「大きな木の太い枝に生まれた葉っぱのフレディー。春に生まれたフレディーは,数えきれないほどの葉っぱに取り巻かれていました。フレディーは,夏の間,気持ちよく楽しく過ごしていました。秋が来ると,みなそれぞれ違う色に色づいていきます。そして**冬,とうとう葉っぱが死ぬときがやってきます。**死ぬとはどういうことなのか,・・・。葉っぱのダニエルは，葉っぱのフレディーに,いのちについて説きます。・・・　フレディーは,自分が生きてきた意味について考えます。**「ねえ,ダニエル,ぼくは生まれてきて良かったのだろうか。」そして,最後の葉っぱとなったフレディーは,地面に降り,ねむりにつきます。」**・・・・・

子どもの「つぶやき」に感動!!

Yくんが「このくつした，Tくんの匂いがするからTくんのものだと思う。」「ほんとだ，Tくんのにおいだ。」とJくん。お友達のもちものをにおいでかぎわける子どもたちの特技に感嘆した一コマです。

子どもたちのなにげないつぶやきに，感性の豊かさを感じたり，感激したりの毎日です。